

生涯学習講座たより

皆さんこんにちは、1月・2月に行いました「石田三成」にお越し頂き有難うございました。大雪警報も発令されず、無事に講座の方を終えることができました。

さて今回の講座は「安政の大獄と梁川星巖～尊王攘夷運動とその影響～」と題して講座を行います。3年度末の講座は年間テーマとは別に、毎年郷土の人物を取り上げて講座を行っています。今年度は「梁川星巖」を取り上げました。郷土の人物を知る事によって郷土に愛着を持って頂ければと思っております。



梁川星巖は江戸時代後期の漢詩人として有名です。各地を遊歴した後、江戸神田お玉ヶ池に玉池吟社を開き、江戸詩壇に指導的地位を占めて名を馳せます。しかし、外国船がしばしば日本近海に姿をあらわし、海に囲まれている日本は「外圧」の危機に直面します。清がイギリスに敗北したアヘン戦争の情報は日本にも伝わり、植民地化されていく清の様子は対岸の火事ではありません。時勢に憂いた星巖は次第に尊王攘夷派の人物と交わるようになります。

今回の講座では梁川星巖の一生をたどりながら、捕縛対象者となった安政の大獄がどのような事件であったのかをみて参ります。梁川星巖は多くの漢詩を残しています。漢詩に見える星巖の思想性に触れ、星巖の人物像について迫っていきたいと思います。多くの人物と交友があった星巖ですが、現在NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で登場する吉田松陰とも交友がありました。松陰との関係についてもお伝えします。

今回の講座で今年度の講座は終了となります。次年度の予定についてもお伝えしたいと思っています。みなさんのお越しを心よりお待ちしております。

安政の大獄と梁川星巖

～尊王攘夷運動とその影響～

【岐阜】 3/27 (金) 19:30～21:30

【本荘】 3/28 (土) 14:00～16:00

【大垣】 3/28 (土) 19:00～21:00

3/29 (日) 14:00～16:00

※予備日…4/4 (土) 大垣本部 14:00～16:00



梁川星巖

江戸後期の詩人。星巖は号。美濃国安八郡曾根村(岐阜県大垣市)に生まれる。江戸に出て山本北山の奚疑塾に入り儒学と詩文を学ぶ。妻の紅蘭と諸国を遊歴し、江戸神田お玉が池に住み、玉池吟社を起こし、名声を高める。その間、藤田東湖・佐久間象山と交わり時事への関心を深める。後に京都に定住し、ペリー来航後は政治活動に関わる。しかし安政5年(1858)年京都に流行したコレラに罹り没す。死の直後安政大獄が起こったため、世人は星巖を「詩(死)に上手」と評した。

<講師> 秋枝 博士 (志門塾 生涯学習部講師)

<受講料> チケット 1枚 2,160円 (税込)

<場所> 岐阜 志門塾岐阜本部 (岐阜シティータワー43)

本荘 志門塾本荘校 (岐阜市稲荷町 5-1-6)

大垣 志門塾本部 3F (大垣市林町 3-186-1)

受講ご希望の方は、志門塾 生涯学習部までご連絡下さい。

TEL 0584-74-3011 E-mail akieda@shimonjuku.com



志門塾 生涯学習講座

梁川星巖の人物像

梁川星巖は漢詩人として有名です。様々な漢詩を残している中で、時勢に問題意識を持ち行動することの必要性を説いた漢詩を詠んでいます。

正際囊鞬無事時

正まさに際さいす囊鞬こうけん無事の時

熙熙何處不春臺

熙熙きき何れの處ところか春臺しゅんたいならざらん

虎争龍戦英雄略

虎争い龍戦う英雄の略

総作文人弄具来

総べて文人の弄具なと作り来たる

「近人の詠史諸篇を読み感有り」

嘉永二年（一八四九）「黄葉山房集」

【釈文】今は平和な時代となって、弓矢は袋に収められ、どこもかしこも、「ほんわか」と「のどか」に春の見晴らしを楽しむようだ。虎と龍とが争いあうような昔の英雄のはかりごとが、すべて文人の机上の弄びとなってしまっている。

【解説】最近の詩人たちはしきりに詠史詩（歴史故事を題材とした中国の詩）をつくり、史上の様々な意見に論評を加えているが、それは議論ごっこのよくなものに過ぎない。実際の社会で起こっている問題の解決に何の効力ももたないことに警鐘を鳴らしています。

関連史跡の紹介



梁川星巖邸跡（京都市上京区）

鴨川河畔、川端通りに面した駐車場の北西隅に「梁川星巖邸址」の石標が立っています。かつて、幕末第一の詩人と謳われた梁川星巖が過ごした「鴨沂小隠」がありました。58歳の時、京都に移住し、尊王攘夷を唱え、梅田雲浜、西郷隆盛、頼三樹三郎らと活動します。尊攘派に対する幕府の弾圧が厳しくなった安政5年(1858)、京都で大流行していたコレラに罹り、9月2日この地から少し離れた東三本木「老龍庵」で永眠します。



南禅寺天授庵（京都市東山区）

星巖は安政の大獄の捕縛対象者となりましたが、その直前にコレラにより亡くなります。星巖の死に様は、詩人であることに因んで、「死に（詩に）上手」と評されました。その後妻・紅蘭は捕らえられて尋問を受けるが、翌年に釈放されます。出牢後は京都で私塾を開き余生を送りました。明治12年死去。76歳。2人の墓は南禅寺天授庵にあり、二人寄り添うようにして静かに眠っています。